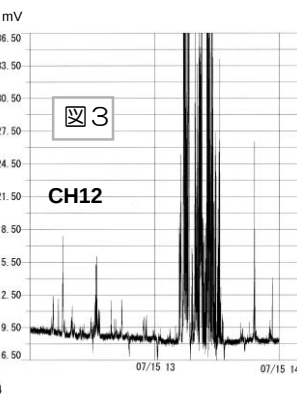
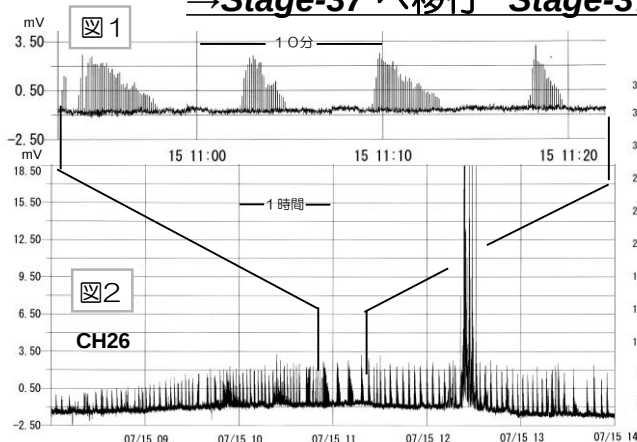


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が12±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 CH26 櫛歯変動形態に変化 Stage-36 が示した 本日 7/15 に極大の可能性 →Stage-37 へ移行 Stage-37 は 7/29±3 を示す 対応地震発生の可能性

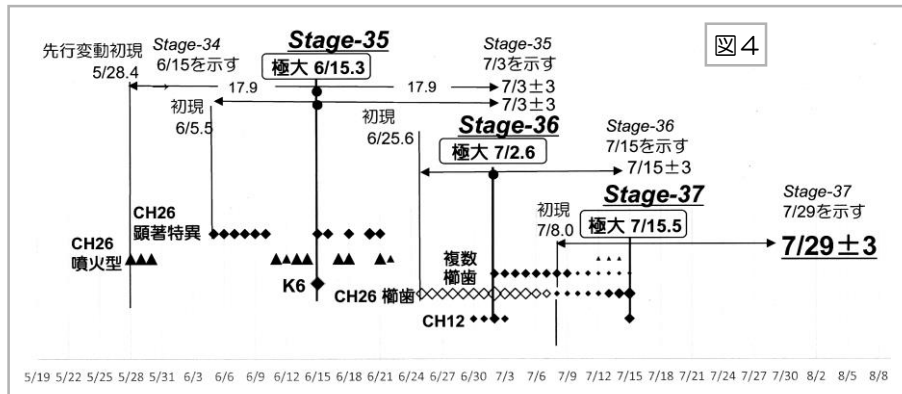


◆Stage-36は、初現6/25.6、極大7/2.6から、7/15±3が示されました。しかし、CH26櫛歯変動が静穏化しないため、7/18以降の可能性を考えました。

◆CH26の櫛歯変動は数日前から、明らかに今までのランダム的に出現していた櫛歯変動がまとまって出現しており、遡って子細に調べたところ、7/8.0から図1の様な櫛歯変動が極めて微弱に出現しだしていることが確認できました。図2では時間軸が詰まって、変動が塊に見えますが、図1は時間軸拡大で櫛歯変動がまとまって出現していることがわかります。

◆7/8.0から変動形態が変わったCH26の櫛歯変動は明らかに昨日、本日で変動値も大きく観測されています。さらに、図2のとおり、本日7/15の12時20分頃には、変動値が大きく観測され、13時20分頃には図3のとおりCH12に大きな変動が観測されました。どちらもこの時間帯に他の観測装置に変動は無く、Eスボではありません。

◆以上のことから、Stage-36が示した7/15に、次のStage-37の極大が出現した認識です。Stage-37は7/29±3を示します。7/26±2に変動静穏化が観測された場合は、7/29±3が対応地震発生の可能性となります。



●推定領域：図5の実線領域内＝大枠推定領域
斜線領域＝火山近傍で可能性が考えやすい推定領域

●推定規模：主震＋余震型の場合＝ M8.0±0.3 (M7.7～M8.0の可能性高い)
または 複合地震活動

※複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが $\text{Log } L = 0.5M - 1.8$ (Utsu.)式で、合計で110～150km程度となる複合地震活動の可能性有（例：M7.1±0.3＋M7.3±0.3等）

○地震発生に伴う震源に近い火山での噴火の可能性は現状では低い見解

※今後、複数日噴火型変動が出現した場合は噴火の可能性有。出現の場合は続報

●推定時期：7月29日±3（※ 7/26±2 に変動静穏化が確認された場合）

○推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震

○推定発生時刻：午前 9時±2時間 or 午後 6時±3時間
（複合地震では当てはまらない場合有）

※18年継続する観測歴上最長の変動は観測例がない初めての体験で、解析が極めて難しいため推定に誤りがある可能性は否めません。お許しください。

※推定に近い地震が発生した場合でも被害の少ないことを祈ります。

